

N8151-105/125及びN8160-99 RDXファームウェアアップデート手順

Rev.1

RDX装置をお買い上げいただきましてありがとうございます。本書は、N8151-105/125内蔵RDX及びN8160-99外付RDXのファームウェアアップデート手順について記載しております。

1. 概要

N8151-105/N8151-125及びN8160-99 RDXのファームウェアを“0283”にアップデートします。お手元のRDX装置のファームウェアが“0283”より古い(数字が小さい)場合、本アップデートを実施してください。

Windows環境でアップデートを実施される場合は、GUIツールのファームウェアアップデートツール“RDX Manager”を使用します。またLinux環境でアップデートを実施される場合はコマンドラインのファームウェアアップデートツール“RDXCodeload”を使用します。

2. 変更内容

ファームウェア“0283”には以下の修正が含まれております。

- ・ カートリッジのパスワード保護機能

※パスワード保護機能は利用しないでください。

※パスワード保護したままのカートリッジは保守サポート対象外です。

3. 必要部材

本手順書に加え、以下の部材があることを事前にご確認ください。

使用環境	必要部材	ファイル名
Windows	ファームウェアデータ	内蔵RDX: RDX2I__NEC__G-0283.bin 外付RDX: RDX2E__NEC__F-0283.bin
	ツール(RDX Manager) ※1	RDXManagerInstaller_2.0.1.49.exe
Linux	ファームウェアデータ	内蔵RDX: RDX2I__NEC__G-0283.bin 外付RDX: RDX2E__NEC__F-0283.bin
	ツール(RDXCodeload) ※2	RDXCodeload

表 1 必要部材

※1: 管理者または管理者権限ユーザでログインして作業してください。
また“RDX Manager”はRDX装置を管理するツールとなりますので、“RDX Manager”をインストールしたまま使用されることをお奨め致します。

※2: “RDXCodeload”ツールは32bitバイナリになります。64bit環境でアップデートされる場合には32bitライブラリが必要となります。rootでログインして作業してください。

4. 実施手順

4-1. 事前準備

ファームウェアアップデートを実施する前に以下の作業を実施してください。

4-1-1. カートリッジの取り出し

RDX装置からカートリッジを取り出してください。

4-1-2. バックアップソフトウェアやRDX装置に関するサービスの停止

バックアップジョブ、バックアップソフトウェアのサービス、その他RDX装置にアクセスする可能性のあるサービスは全て停止してください(RDX Managerは除く)。

4-1-3. ドライブレターの確認

ファームウェアアップデート作業により、RDX装置のドライブレターが変更される場合があります。その為作業前にRDX装置のドライブレターを記録しておき、作業後にドライブレターが変更されていた場合には、ドライブレターを作業前の値に設定し直してください。

4-1-4. 各環境でのファームウェアアップデート

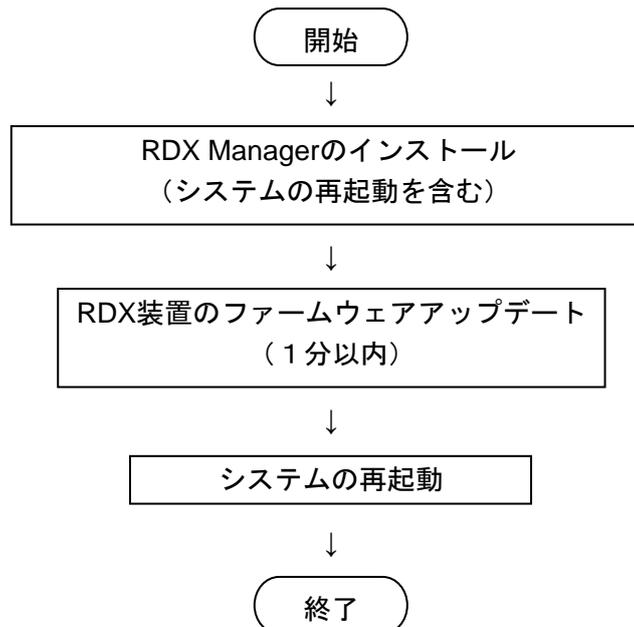
- ・Windows環境でファームウェアアップデートを実施する場合は、4-2項に進んでください。
- ・Linux環境でファームウェアアップデートを実施する場合は、4-3項に進んでください。

4-2. Windows環境のファームウェアアップデート手順

作業するには、システムに管理者または管理者権限ユーザでログインしてください。

以下にWindows Server 2019 システムで内蔵RDXのアップデートを実施した例を示します。

外付RDXの場合は、ファームウェアデータファイル名を読み替えてください。



4-2-1. RDX Managerのインストール

本書でインストールする“RDX Manager”はバージョン“2.0.1.49”です。古いバージョンをインストールされていた場合は、アンインストールしてからバージョン“2.0.1.49”をインストールしてください。

4-2-1-1. 旧バージョンの RDX Utility、RDX Manager のアンインストール

既にRDX UtilityやRDX Manager 2.0.1.49以前のバージョンがインストールされている場合にはアンインストールをしてください。

■RDX Utility、RDX Manager のアンインストール手順

[コントロールパネル] - [プログラムと機能]から[RDX Utility_1.XX]または[RDX Manager Installer _0.1.0.XX]のアンインストールを実施してください。

4-2-1-2. RDX Manager のインストール

必要部材の“Tool”-> “Windows”ディレクトリを開き、“RDXManagerInstaller_2.0.1.49.exe”ファイルをクリックする。

名前	更新日時	種類	サイズ
 RDXManagerInstaller_2.0.1.49	2020/08/18 13:45	アプリケーション	51,363 KB

図 4-2-1

次のように RDX Manager のセットアップが起動されます。“次へ”をクリックします。



図 4-2-2

インストール先を確認(変更する場合は、“参照”をクリック)して、“次へ”をクリックします。

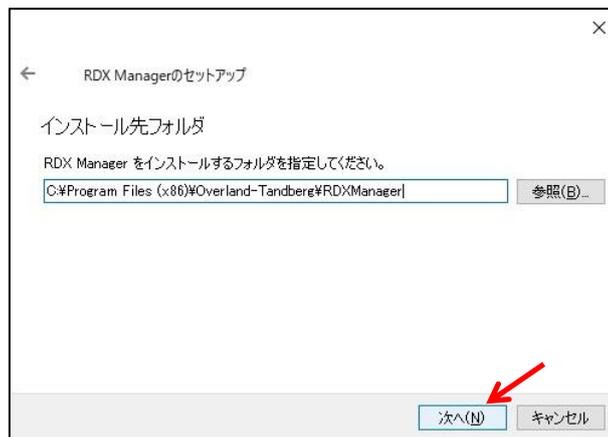


図 4-2-3

“次へ”をクリックします。



図 4-2-4

“ライセンスに同意する。”を選択して、“次へ”をクリックします。

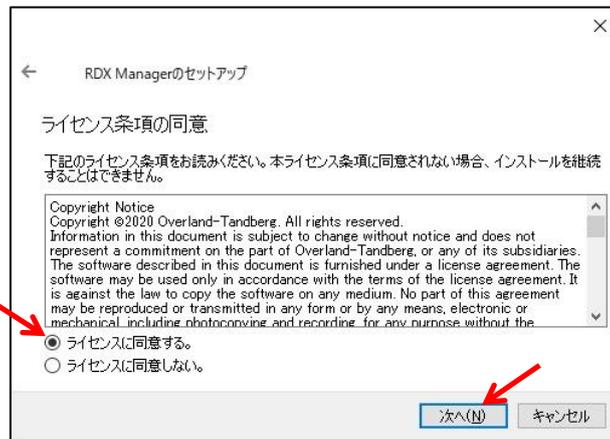


図 4-2-5

“次へ”をクリックします。

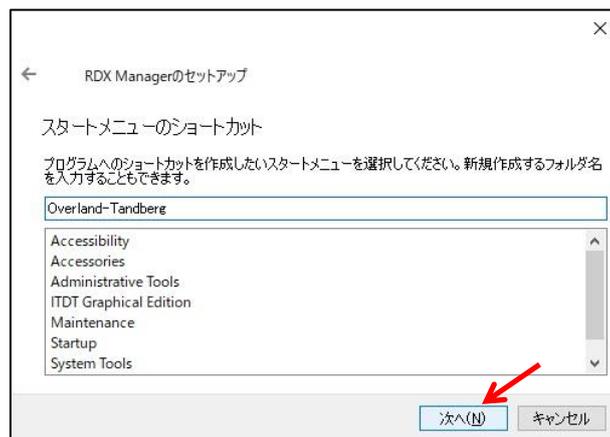


図 4-2-6

“インストール”をクリックします。

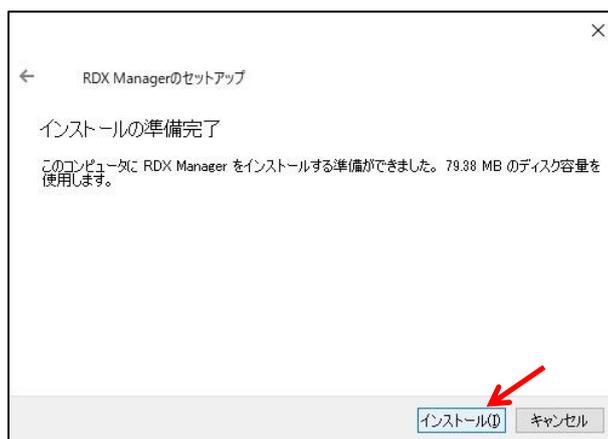


図 4-2-7

インストールが開始されます。

完了後、次のように表示されます。“完了”をクリックします。

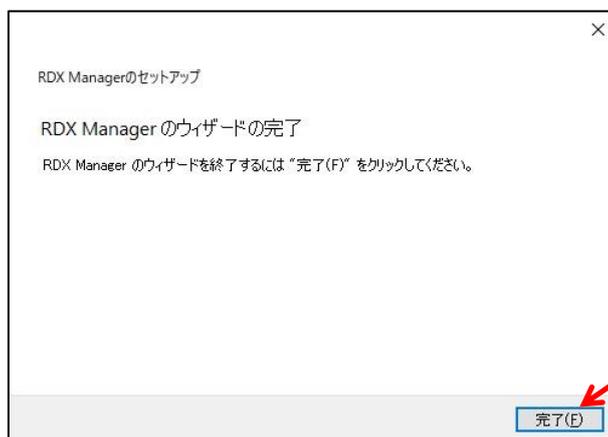


図 4-2-8

4-2-2. RDX装置のファームウェアアップデート

以下に“RDX Manager”を使用して、内蔵RDXのファームウェアをアップデートする手順を示します。
外付RDXのアップデートを行う場合には、ファームウェアデータファイル名を読み替えてください。

4-2-2-1. RDX装置のファームウェアバージョンの確認

“RDX Manager”を起動します。図4-2-9のように接続されている全てのRDXの状態が表示されます。
何も表示されない場合には、システムとRDX装置の接続を再確認して、“RDXドライブをスキャンする”をクリックしてください。

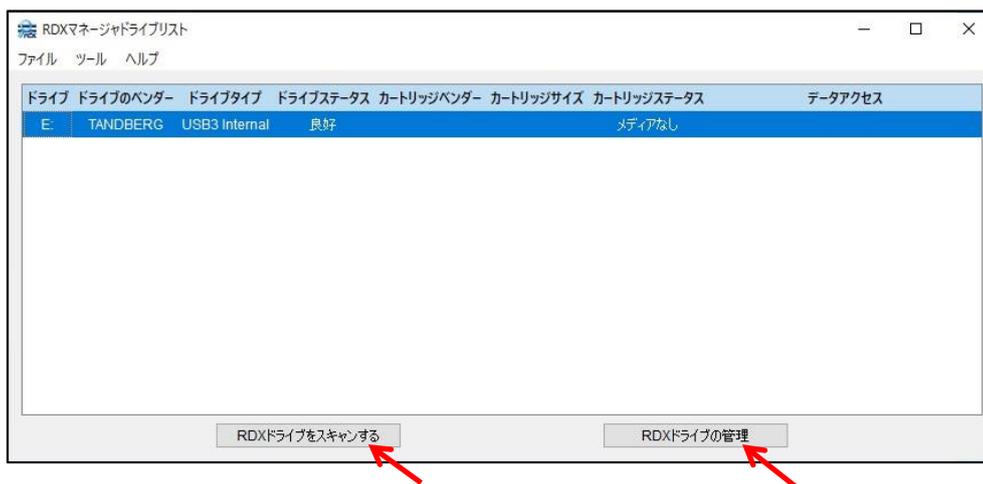


図 4-2-9

“RDXドライブの管理”をクリックすると図 4-2-10 のようにステータスが表示されます。
ファームウェアバージョンを確認してください(例では、「0279」)。



図4-2-10

ファームウェアバージョンが、「0283」より古い(数字が小さい)場合は、4-2-2-2に進んでください。
ファームウェアバージョンが、「0283」の場合は、アップデート作業は必要ありませんので
“RDX Manager”を閉じます(右上の‘X’をクリック)。

4-2-2-2. RDX 装置のファームウェアアップデート

“ユーティリティ”のタブをクリックします。

図 4-2-11 が表示されたら“ファームウェアの更新”をクリックします。



図 4-2-11

次にファームウェアデータファイルの選択画面が表示されます。

必要部材の“FW_Data”ディレクトリからRDXタイプに適したファームウェアデータファイル(例は内蔵RDX)を選択して“開く”をクリックします。アップデートが開始されます。

内蔵 RDX: RDX2I__NEC__G-0283.bin 外付 RDX: RDX2E__NEC__F-0283.bin

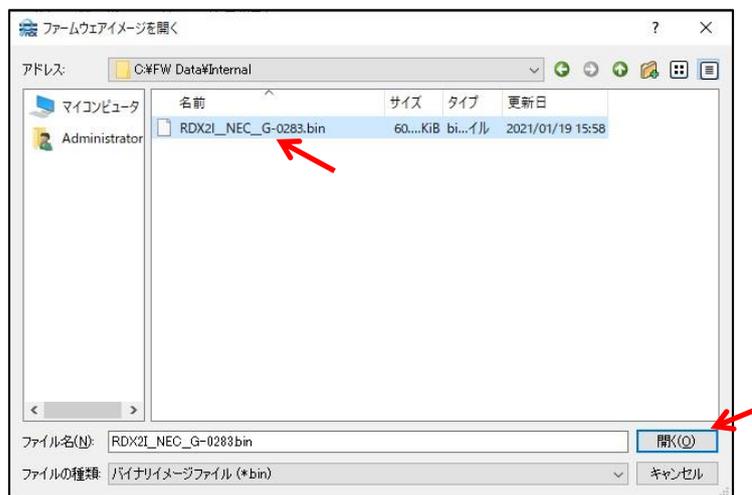


図 4-2-12

1分以内で終了します。正常終了すると“ファームウェア更新正常終了”が表示されます。



図 4-2-13

“ファームウェア更新正常終了”以外が表示された場合には、RDX装置タイプと選択したファームウェアデータファイルを確認して 4-2-2-1 から再実行してください。

図4-2-13で“ステータス”タブをクリックします。

“ファームウェアバージョン”が「0283」に更新されていることを確認してください。

“x”をクリックし、“RDX Manager”を閉じます。



図 4-2-14

4-2-2-3. システムの再起動

RDX 装置を接続しているシステムを再起動してください。

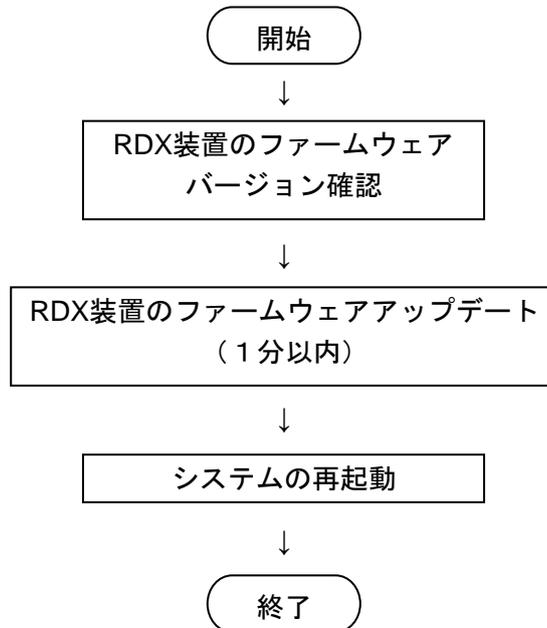
以上で作業は完了です。

尚、“RDX Manager”はRDX装置のデバイスモードを変更する為のツールとなりますので、インストールした状態でご使用ください。

4-3.Linux環境ファームウェアアップデート手順

ファームウェアアップデートツール“RDXCodeload”は32bitバイナリです。64bit環境でアップデートする場合には事前に“glibc”、“glibc-devel”、“libstdc++”の32bit版パッケージをインストールしてください。
 (“rpm -ivh パッケージ名”もしくは“yum localinstall --disablerepo=*パッケージ名 パッケージ名 …”) 作業するには、システムに“root”でログインしてください。

以下にRHEL6.5システムで内蔵RDXのアップデートを実施した例を示します。
外付 RDX の場合は、ファームウェアデータファイル名を読み替えてください。



4-3-1. RDX装置のファームウェアバージョン確認

4-3-1-1. RDXCodeload 実行準備

作業用ディレクトリ(例では、“temp”)を作成し、ファームウェアアップデートツール“RDXCodeload”とファームウェアデータファイル(例では内蔵RDX)をコピーします。

作業用ディレクト内のファイルを確認します。

“ls -l”を入力してください。

```
[root@localhost temp]#  
[root@localhost temp]# ls -l  
total 636  
-rw-r--r--. 1 root root 62110 Jan 19 2021 RDX2I__NEC__G-0283.bin  
-rw-r--r--. 1 root root 584985 Oct 28 2014 RDXCodeload
```

図 4-3-1

“RDXCodeload”ファイルを実行可能に変更します。

“chmod a+x ./RDXCodeload”と“ls -l”を入力してください。

“RDXCodeload”ファイルの左側に‘x’が追加されます。

```
[root@localhost temp]#  
[root@localhost temp]# chmod a+x ./RDXCodeload  
[root@localhost temp]# ls -l  
total 636  
-rw-r--r--. 1 root root 62110 Jan 19 2021 RDX2I__NEC__G-0283.bin  
-rwxr-xr-x. 1 root root 584985 Oct 28 2014 RDXCodeload
```

図 4-3-2

4-3-1-2. RDX 装置のファームウェアバージョン確認

図4-3-2で“RDXCodeload”を実行して、接続されているRDX装置を確認します。

“./RDXCodeload -s”を入力してください。

次のように RDX 装置の情報が表示されます。例ではバージョンは「0279」です。

```
[root@localhost temp]#  
[root@localhost temp]# ./RDXCodeload -s  
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>  
<Inventory>  
  <Device vendor="TANDBERG" product="RDX          " number="1" type=" U  
SB 3 Internal">  
    <Firmware> version="0279" </Firmware>  
  </Device>  
</Inventory>  
[root@localhost temp]#
```

図 4-3-3

ファームウェアバージョンが、「0283」より古い(数字が小さい)場合は、4-3-2-1に進んでください。
ファームウェアバージョンが、「0283」の場合は、アップデート作業は必要ありませんので
作業用ディレクトリを削除して作業を終了してください。

4-3-2. RDX装置のファームウェアアップデート

4-3-2-1. ファームウェアアップデート

図4-3-3で“RDXCodeload”を実行して、RDX装置のファームウェアをアップデートします。

“./RDXCodeload -d -u -p ./ファームウェアデータファイル名”を入力してください

(例では、ファイル名:RDX2I__NEC__G-0283.bin)。アップデートが開始されます。

```
[root@localhost temp]# ./RDXCodeload -d -u -p ./RDX2I__NEC__G-0283.bin  
Scanning for devices...  
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>  
<CodeLoad>  
  <Device number="1" type=" USB 3 Internal">  
    <Firmware> version="0279" </Firmware>  
    <Package> version="0595" </Package>  
Starting codeload to device 1  
  <Status result="pass">  
CodeLoad Successful!  
    <Message="0">Update successful.. </Message>  
  </Status>  
  </Device>  
</CodeLoad>  
[root@localhost temp]#
```

図 4-3-4

1分以内に終了し、正常終了すると“CodeloadSuccessful!”が表示されます。

“Codeload Successful!”以外が表示された場合には、RDX装置タイプと選択したファームウェアデータ
ファイルを確認してファームウェアアップデートを再実行してください。

4-3-2-2. RDX 装置のファームウェアバージョン確認

図4-3-4でアップデートしたRDX装置のファームウェアバージョンを確認します。

“./RDXCodeload-s”を入力してください。

次のように RDX 装置の情報が表示されます。例ではバージョンは「0283」です。

```
[root@localhost temp]#  
[root@localhost temp]# ./RDXCodeload -s  
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>  
<Inventory>  
  <Device vendor="TANDBERG" product="RDX          " number="1" type=" U  
SB 3 Internal">  
    <Firmware> version="0283" </Firmware>  
  </Device>  
</Inventory>  
[root@localhost temp]#
```

図 4-3-5

作業用ディレクトリを削除してください。

4-3-3. システムの再起動

RDX装置を接続しているシステムを再起動してください。

以上でファームウェアアップデート作業は完了です。

以上